

地方創生に係る交付金 実績報告書

資料 4

①地方創生推進交付金事業

事業名称	「足袋のまち行田」活性化プロジェクト		事業年度	平成28年度～30年度	
総事業費	45,600,000	うち国庫補助金額	22,800,000	補助率	1/2

事業の背景・概要	<p>行田の足袋は、明治時代には名実ともに日本一となり、昭和13年には、事業所数約200社、足袋生産量8,400万足、全国生産の80%を占めていた。しかし、戦後の服装の変化は著しく、靴下やサンダルなどに移行していくに従い、生産は伸び悩み、現在は、全国トップシェアを誇ってはいるものの、近年は年間約140万足の生産量にとどまっている。</p> <p>そのような中、平成27年3月2日に行田の足袋製造用具などが国登録有形民俗文化財に登録されたほか、平成28年7月8日には行田の足袋産業が舞台となった池井戸潤氏著書「陸王」の出版など、本市の地場産業の足袋が再び注目を浴びたことから、ここを絶好の機会と捉え、「既存足袋の販路拡大と新商品開発」と「足袋のまち活性化」を一体的なプロジェクトとして実施することで、事業所の減少及び地場産業の衰退に歯止めを掛けるとともに、市経済及びまちの活性化を図る。</p>
----------	---

実績

年度	実施内容	事業費	交付金充当額
H28年度	○販路拡大・新商品開発事業 イベントPR用品を作成したほか、販路拡大を目的としたマーケティング調査や新商品開発のための金型作成、試作を行った事業者を支援した。 (交付決定が平成28年12月末であったため、事業期間は平成29年1月～3月の3カ月)	3,753,642	1,876,821
H29年度	○販路拡大・新商品開発事業 市場調査、販路拡大を目的に、イベント出展や海外訪問を行った事業者を支援した。また、新商品開発のための金型作成や、原材料購入を支援した。 ○足袋のまち活性化事業 市内のモデル小学校1校を対象に、足袋の健康効果を検証する研究事業を実施するとともに、足袋蔵めぐりの企画や足袋型の記念切符発行による観光客誘致を行った。	18,909,067	9,454,533
H30年度	○販路拡大・新商品開発事業 販路拡大を目的とした商談会や海外展示、新商品開発のための金型作成や、製造のためのマシン購入など行う事業者を支援した。 ○足袋のまち活性化事業 足袋フィッター(足に合った足袋を薦めることができる人)を養成する講座や、足袋の履きこなしを競うコンテスト(足袋コレ)を実施し、足袋の地場産業としての意識の定着化を図り、観光客を誘致した。	20,058,622	10,029,311
合 計		42,721,331	21,360,665

今後の予定	本プロジェクトは、引き続き「行田版DMOを核とした持続可能な地域形成プロジェクト」の一部として継続していく。
-------	--

重要業績評価指標 (KPI)

指標の名称	分類	事業実施前(平成27年3月)	1年目(平成29年3月)	2年目(平成30年3月)	3年目(平成31年3月)
「足袋のまち行田」活性化推進協議会加盟事業者の足袋売上高合計	目標値	—	910,000千円	940,000千円	990,000千円
	実績値	900,000千円	931,241千円	932,315千円	901,671千円
観光入込客数	目標値	—	1,466,000人	1,516,000人	1,566,000人
	実績値	1,466,000人	1,503,000人	1,430,000人	1,410,000人

地方創生に係る交付金 実績報告書

②地方創生拠点整備交付金事業

事業名称	街なかにぎわい拠点整備事業			事業年度	平成29年度 (平成28年度繰越)
総事業費	117,099,981	うち国庫補助金額	44,220,000	補助率	1/2

事業の背景・概要	<p>本市の中心市街地には、足袋蔵をはじめとした歴史的建築物が現在も数多く点在しており、それらを目的とした観光客が近年、増加傾向にあるが、街歩きの際に休憩できる施設や、本市ならではの魅力的な飲食メニューを提供できる店舗が少ないことから、来訪者の滞在時間が短い傾向にあり、観光客の増加が街の賑わいに必ずしも繋がっていない状況である。</p> <p>そこで、かつての足袋産業の繁栄を支えた市指定文化財である旧忍町信用組合店舗建物を、周辺景観とも調和する水城公園内に移築し、散策エリアの拠点として、訪れた方への飲食提供をメインとした賑わい拠点施設として整備する。また、施設の運営は、市内子育てサークル等が行うことで、観光客はもとより、親子連れの市民等もターゲットとし、交流を促進する。</p> <p>また、施設の整備と併せて、行田産農産物等を利用した健康レシピを開発して施設で提供する他、市内協賛店舗にも呼びかけて参加してもらうことで、魅力向上を図る。</p>
----------	---

交付金充当事業(平成29年度)

取組名	実施内容	H29年度事業費	交付金充当額
旧忍町信用組合店舗移築・改修・復原事業	<ul style="list-style-type: none"> ・市指定文化財である旧忍町信用組合店舗建物を、水城公園内に移築・改修・復原し、街なかにぎわい拠点施設として整備を行った。 ・カフェ等の運営を行う団体を公募し、審査を経て運営団体「行田レインボーネットワーク」を選定し、協定を締結した。 <p>【事業内容】修復設計、本体工事(解体・移築工事)、その他移築先調査・測量・整地工事等</p>	115,449,981	43,395,000
健康レシピ開発事業	<ul style="list-style-type: none"> ・行田在来青大豆をはじめとした本市の特色ある農産物等を活用した健康レシピを、栄養学科のある県内大学への委託により開発した。 <p>【事業内容】レシピ開発委託</p>	1,650,000	825,000
合計		117,099,981	44,220,000

平成30年度以降の取組み

実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・運営団体の公募及び選考を行った結果、行田レインボーネットワークに決定し、当該団体と調整の上必要な備品等を準備して、平成30年9月22日にVert Café(ヴェール・カフェ)として営業を開始した。 ・令和元年5月より毎月行田市文化団体連合会加盟団体による館内での展示(3週間)、もしくは館玄関前(雨天時は館内)でのイベントを実施している。
------	---

重要業績評価指標(KPI)

指標の名称	分類	事業開始前	平成30年度	令和元年度	令和2年度
カフェ及び協賛店舗の合計売上高(千円)	目標値		5,000千円	13,000千円	25,000千円
	実績値	0円	7,170千円		
街なか観光入込客数(人)	目標値		310,000人	330,000人	350,000人
	実績値	300,000人	264,409人		
人口社会減の解消数(人)	目標値		0人	100人	250人
	実績値	0人	-		

地方創生に係る交付金 実績報告書

③地方創生推進交付金事業

事業名称	行田版DMOを核とした持続可能な地域形成プロジェクト		事業年度	平成31年度～令和3年度	
総事業費	258,998,000	うち国庫補助金額	129,499,000	補助率	1/2

事業の背景・概要	<p>行田市では、ここ10年で生産年齢人口が約16%、年少人口が約20%減少している一方、高齢者人口は約37%増加しており、少子高齢化が進行している。また、総人口についても2006年から約7,300人減少しており、まちの活力維持に影響を及ぼしている。このような中で、まちの活力を維持・向上させていくために、若者をはじめとする多くの人を域外から呼び込むことが必要である。</p> <p>そこで、地方創生推進交付金を活用した本プロジェクトを立ち上げ、多様な事業者との連携のもとに新たに観光DMOを設立し、既存コンテンツの充実強化や新規コンテンツの開発を図ることで、消費の受け皿の拡大を促していく。さらに、マーケティングに基づいた観光戦略のもと、情報発信・プロモーションを強化し、陸王以降伸び悩んでいる観光客数の増加を図り、観光地としての位置を構築していく。</p>
----------	--

実施予定事業の概要

年度	実施内容	事業費	交付金充当額
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> ●DMOの形成・確立事業 令和2年度中のDMO設立を目指し、設立アドバイザーによる支援のもと、観光関連データの調査・収集などの体制整備を行うほか、関係者への説明会やシンポジウムの開催等により、市民・事業者の意識醸成を図る。 ●観光コンテンツ開発・強化事業 消費の受け皿を整備すべく、グルメやお土産、体験型観光商品を開発・強化する事業者に対して支援を行う。また、まちなかの賑わい創出に向け、通年型イベントを実施する団体に対して支援を行う。 ●情報発信・プロモーション強化事業 まず、旅マエのプロモーションとして、海外の情報発信に長けている媒体に本市の情報を掲載する。次に、旅ナカのプロモーションとして、観光を消費に繋げるため、飲食店を中心とした多言語対応パンフレット作成する。また、インバウンド事業者によるファムトリップを実施し、今後の戦略構築に活かす。 	72,288,000	36,144,000
令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> ●DMOの形成・確立事業 DMO設立に向けて、事業計画書の作成や専門人材の確保、DMO候補法人・DMO法人の申請を観光庁に対して行う。 ●観光コンテンツ開発・強化事業 令和元年度の事業を継続して実施するとともに、新たなナイトコンテンツの開発や足袋の新商品開発に対する支援を行う。 ●情報発信・プロモーション強化事業 まず、旅マエのプロモーションとして、海外の情報発信に長けている媒体に本市の情報を掲載する。次に、旅ナカのプロモーションとして、観光を消費に繋げるため、お土産店を中心とした多言語パンフレットを作成する。 	106,790,000	53,395,000
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> ●DMOの形成・確立事業 DMOの組織体制を強化すべく、職員研修の実施や自主財源確保に向けた着地型旅行商品の造成・販売を行う。 ●観光コンテンツ開発・強化事業 令和元年度・2年度の事業を継続して実施するとともに、足袋蔵を活用して起業する事業者等への支援を行う。 ●情報発信・プロモーション強化事業 DMOの戦略に基づき、旅マエ・旅ナカ・旅アトのプロモーションを一貫して実施する。 	79,920,000	39,960,000
合 計		258,998,000	129,499,000

重要業績評価指標 (KPI)

指標の名称	分類	事業実施前(平成31年1月)	1年目(令和2年3月)	2年目(令和3年3月)	3年目(令和4年3月)
市内観光入込客数	目標値	-	1,550,758人	1,670,758人	1,910,758人
	実績値	1,430,758人	-	-	-
観光協会HP閲覧件数	目標値	-	480,211回	500,211回	540,211回
	実績値	460,211回	-	-	-
特産品等販売拠点の売上額	目標値	-	12,000,000円	12,000,000円	14,000,000円
	実績値	12,000,000円	-	-	-
行田版DMOが造成した着地型旅行商品等の売上額	目標値	-	0円	1,000,000円	6,000,000円
	実績値	0円	-	-	-